

応募シート(簡易創業計画書) 記入例

◆申込者の情報 (グループで参加する場合は、リーダーの情報)

年次	X	学科	XXXXX 工学科	学生番号	NNNNNNN
名前	生産工 かおる		ふりがな	せいさんこう かおる	
携帯電話番号	080-NNNN-NNNN		大学のメールアドレス	nnnnnn @g.nihon-u.ac.jp	

グループ(1組3人まで)で参加する場合は、メンバーの情報を記入してください

年次	学生番号	名前	ふりがな	携帯電話番号	大学のメールアドレス
					@g.nihon-u.ac.jp
					@g.nihon-u.ac.jp

◆参加にあたっての確認事項

以下の枠内の6つの事項を確認し、左端のチェック欄(□)にチェック(☑)をして申し込みください

- 1年以内に起業(法人設立等)することを本気で目指し、起業支援プログラムに参加を申し込みます
- 起業支援プログラムは単位の認定をしないこと、起業支援プログラム参加を理由とした留年は認められないことを理解しています
- 起業支援プログラムで実施する講義、対面相談会などのカリキュラムに参加します。無断欠席しません
- コンサルタントからのアドバイスで課された宿題事項を必ず実施して参加します
- 起業に伴うリスク(利害関係者に対する責任等)、事業資金の必要性等があることを理解しています
- 起業支援プログラムに参加して1年以内の起業を目指していることを、保護者が承諾しています

上記を確認のうえ、「起業支援プログラム」に参加を申し込みます (チェック欄→)

◆起業したいと考えている事業の内容を書いてください (記述スペースが足りない場合は縦にひろげても構いません)

事業名 (30字程度)

学生災害ボランティアポータルアプリの開発と運用

1. 製品・サービスの内容

(提供する製品やサービスはどのようなものか、どんなことができるか、できるだけ具体的に記述してください。さらに、どんな人が、どんなときに、どのように使うものか、想定している利用シーンも記述してください。)

近年日本全国で自然災害が多発している。大学生が各地の災害ボランティアに参加しやすいように、専用アプリをつくる。アプリの機能は以下のとおり。

- ① 災害ボランティア情報の提供 : 災害ボランティアを募集している団体の情報を掲載し、検索条件(地域、期間、ニーズなど)で検索ができる
- ② 災害ボランティアの申込 : 検索した災害ボランティアの募集にアプリから申込みができる
- ③ 活動実績ポイントの付与・管理 : ボランティア活動をしたら活動終了後にボランティア団体が学生の実績として承認する。活動が承認されたときに、アプリでポイントを付与し、ポイントでランキングなどを付ける。
- ④ ユーザー登録 : ユーザーとなる学生は実名で登録する。自分の活動実績と獲得ポイントを一覧で閲覧できる。
- ⑤ 活動証明書発行 : 活動履歴やポイントの実績証明書を、アプリからの申請を踏まえて、当社から学生に郵送

する。学生は就職活動等でボランティア活動の実績を伝えて「ガクチカ」アピールできる。

⑥ 学生ボランティアコミュニティの運営 : アプリ内でコミュニティを作り、ボランティアに関する情報交換や、活動実績の共有、学び合い、オフ会の実施など、ボランティアを通じた繋がりを作る。

2. 想定顧客(ターゲット顧客)

(商品やサービスを購入する人・利用する人はだれなのか、具体的に記述してください。性別、年齢層、職業、住んでいる場所、年収、好みなど、想定している人を具体的に記述してください。)

スタート時は、首都圏の 1 都3県にキャンパスがある大学の大学生・大学院生をターゲットとしています。

将来は、日本全国の大学生・大学院生をターゲットにし、各地方で支部を作ったりして活動していきます。

当社が運営しますが、社会福祉法人全国社会福祉協議会の全国ボランティア・市民活動振興センターにバックについてもらい、情報提供と、スポンサーとして活動資金を提供してもらいます。

3. 特長、差別化

(商品やサービスはどんな特長があり、似たような商品・サービスとどういった点が違うか、どんな点で優れているか、などをできるだけ具体的に記述してください。)

このサービスの特徴は、以下の 3 つです。

①学生に特化している : 学生は時間と体力があり、災害ボランティアには向いています。アプリで提供することで、災害ボランティアに参加する敷居を下げることができます。

②全国社会福祉協議会をバックにつける : ボランティアセンターを運営する全国の社会福祉協議会とつながることができ、いち早く情報を収集・提供できます。アプリの運営資金を提供してもらうことができます。

③活動証明書発行 : 就職活動には「ガクチカ」が必要になってきています。全国社会福祉協議会が認証した当アプリから出力する活動証明書は品質が担保され、就職活動でボランティア実績をアピールできるようになります。

4. 利益計画 (単位:万円)

(事業をスタートしてから最初の 3 年間で、どのくらいの売上が考えられ、どのくらいの費用がかかり、その結果どのくらいの利益がでるか、現在考えている金額を記述してください)

	1 年目	2 年目	3 年目
①売上高	500 万円	2,000 万円	2,000 万円
②費用	1,000 万円	1,200 万円	1,200 万円
③利益(=①-②)	-500 万円	800 万円	800 万円

売上の根拠:(上の表①の金額を考えた計算根拠を記述してください)

売上はすべて全国社会福祉協議会です。1 年目はお試し期間として、500 万円程度の予算を付けてもらいます。2 年目以降は 2,000 万円の予算を付けてもらい運営を継続します。

5. 初期投資額 (単位:万円)

(事業を始めるために、最初になににどの程度のお金をかける必要があるか、どのようなものを購入するか、を現在考えている範囲でできるだけ具体的に記述してください。)

アプリの開発費に、200 万円かかります。

自分と仲間 3 人でアプリを開発しますが、開発の時にかかるサーバー利用代の支払い、テスト用スマホの購入、

友人への人件費(謝礼)の支払いにかかります。

6. 「起業支援プログラム」に参加し、1 年後に目指している姿・目標

(「起業支援プログラム」にチャレンジし、この事業が 1 年後にどのようになっていると考えているか、具体的に記述してください。)

1 年後には、アプリの開発を進めてテスト版が完成し、全国社会福祉協議会に相談に行けるような状態になってたいです。

7. 将来の目標

(この起業して将来どのような事業にしたいか、自分はどうなりたいか、などの目標としている姿を具体的に記述してください。)

日本は災害が多発するようになってきました。ボランティアの重要性が高くなっていきますが、災害ボランティアに参加する敷居が高かったり、参加する方法が知られていなかったりするので、なかなかボランティアが集まりません。時間と体力のある学生のうちに災害ボランティアを経験することで、将来も災害ボランティアに参加しやすくなります。そうすることで、将来日本で災害が起こった時に、災害ボランティアが集まりやすく、参加しやすくなっている社会、助け合う社会にしたいと考えています。

最初は全国社会福祉協議会がスポンサーになっていますが、将来は一般企業からもスポンサーを募って活動資金を獲得し、ボランティア活動の認知度向上の活動や、災害ボランティアの機材の購入・提供、募金活動などにも幅を広げていきたいと考えています。

8. 「起業支援プログラム」に参加したい理由

(なぜ「起業支援プログラム」にチャレンジしてみたいと考えたか、その理由を具体的に記述してください。)

災害ボランティアに参加してみて、学生が少ないことに疑問を思いました。学生が災害ボランティアに参加しやすい状況を作り、社会の役に立ちたいと考えました。自分には想いとアプリ開発の経験はありますが、起業して仕事としてやっていくための知識がないので、コンサルタントにアドバイスをもらいながら起業をしたいと思ったからです。

9. 起業に向けたあなたの「強み」

(起業する事業内容に関係するこれまでのあなたの経験、実績、人脈、学びなど、他人よりも優れている点を具体的に記述してください。)

私は、大学 1 年生と 2 年生の時に災害ボランティアに 12 回参加しました。その時の経験があり、社会福祉協議会の人と、他大学から災害ボランティアに参加していた学生との繋がりががあります。これらを強みとして、以下のような差別化ができると考えています。

- ・過去に Android アプリを開発したことがあること
- ・他大学の学生災害ボランティアの仲間も巻き込んで開発しアプリのテストがスピーディーにできること
- ・アプリをスタートするときに学生災害ボランティア仲間を中心に登録してもらい、スピーディーに立上がることができること
- ・地域の社会福祉協議会を通じて、本部に掛け合ってもらえるルートができていること

* 記入スペースが不足している場合には、枠を広げて記入してください。

* 写真・図表などの貼付も可能です。

* 追加説明が必要な場合には、別紙として A4 サイズ×5 枚まで添付可能とします。